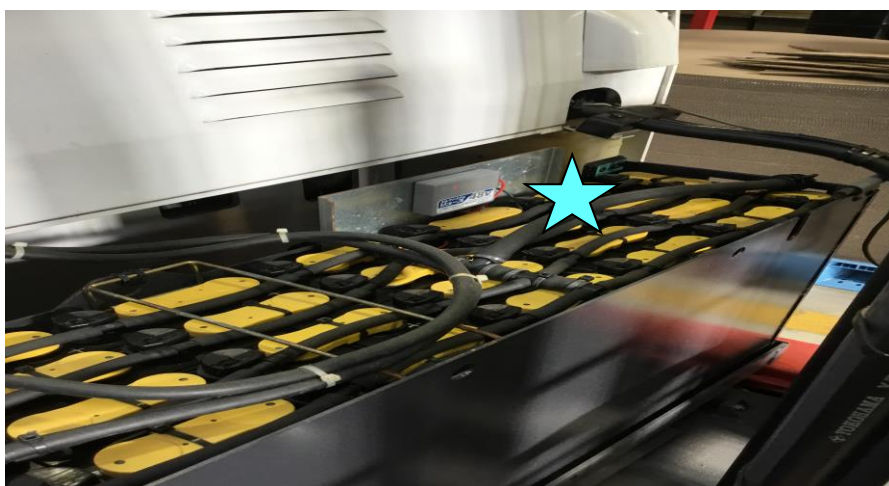


エコアクション21 環境経営レポート

2024 年度
(第 60 期 2023.10～2024.9)



バッテリー延命装置
エルマシステム導入

吉田紙器工業株式会社

作成日 2024 年 12 月 6 日

【目次】

表紙	1
目次	2
1. 組織の概要	3
1) 事業者名及び代表者名	3
2) 所在地	3
3) 責任者及び事務局	3
4) 連絡先	3
5) 事業活動の内容	3
6) 事業規模	3
7) 認証登録範囲	3
8) EA-21推進組織図	4
2. 環境経営方針	5
3. 環境経営目標	6
4. 実績	7
5. 環境経営計画の取組結果と評価、次年度取組内容	8・9
6. 環境関連法規の遵守状況確認、評価並びに違反、訴訟等の有無	10
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	11

1. 事業概要

1) 事業者名及び代表者名

吉田紙器工業 株式会社
代表取締役社長 吉田 修

2) 所在地

〒370-0614
群馬県 邑楽郡 邑楽町大字赤堀字鞍掛 4119 番 3

3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21 責任者 : 営業部主任 谷津 卓哉
EA-21 事務局 : 常務取締役 吉田 益美

4) 連絡先

連絡担当者: 吉田 益美 (EA21 事務局)
TEL : 0276-70-2811
FAX : 0276-70-2813
E-mail: ysd-gyomu1@yoshidashiki.jp

5) 事業活動の内容

- ・ダンボール製品の設計、製造・印刷及び販売
- ・梱包資材の販売

6) 事業規模

項目	単位	2022 年(第 58 期)	2023 年(第 59 期)	2024 年(第 60 期)
主要製品生産量	m ²	5,673,069	5,555,472	5,404,878
従業員数	人	25.5	25.5	26.5
床面積	m ²	3,542	3,542	3,542
敷地面積	m ²	6,943	6,943	6,943
売上高	百万円	645	729	749

7) 認証登録範囲

- ・ 全社・全活動を対象範囲としています。
- ・ レポート対象期間: 2023年10月～2024年9月
- ・ レポート発行日: 2024年12月6日

8) 推進組織図

吉田紙器工業株式会社 EA-21推進組織図											
人員			代表者		承認(社長)		作成(EA責任者)				
役員	2	名	吉田 修		吉田		吉田益				
管理職	3	名									
一般	15	名									
パート・人派	6.5	名									
合計	26.5	名									
			EA-21責任者				制改訂履歴				
			谷津 卓哉		1 EA-21システムの確立、実施推進、維持管理 2 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施 3 環境経営目標及び環境経営計画の策定 4 環境経営レポートの作成 5 EA-21に関する実績把握と報告 6 EA-21環境経営マニュアルの作成		2006年4月21日 制定				
2024年11月25日 改定											
EA-21委員会					EA-21事務局						
1 環境経営目標及び環境経営計画の結果確認		委員長	吉田 修	事務局長 吉田益美 副事務局長 増田由美子		1 EA-21責任者の補佐業務 2 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 3 教育、訓練、計画の策定と実施(緊急時対応訓練・テスト含む) 4 環境文書及び記録の作成、管理 5 その他EA-21に関する業務					
		EA-21責任者	谷津 卓哉								
		営業・業務G責任者	北山 守								
		プリンターG責任者	高木正和								
2 EA-21に関する審議		仕上G責任者	須永清明								
		配送G責任者	長澤和広								
		事務局	吉田益美								
鞍掛工場											
営業・業務グループ			プリンターグループ			仕上グループ			配送グループ		
責任者	北山 守		責任者	高木正和		責任者	須永清明		責任者	長澤和広	
副責任者	吉田益美 谷津卓哉		副責任者	鈴木秀夫 菊地俊行		副責任者	茂木一夫 松澤隆一		副責任者	畑山光夫 蓮見英樹	
メンバー	増田由美子 関根あけみ 田代節子ハト		メンバー	ロジェオ派 矢口公俊 ナム派 ヒエウ派		メンバー	森島 誠 平井昭彦 宮澤圭一 古内ハ [○] 黒岩ハ [○] 香取く [○] に江PM		メンバー	澁澤圭吾	
	1 環境経営計画の実施 (電気使用量の削減) (グリーン購入の促進) (環境に優しい製品提案)			1 環境経営計画の実施 (水資源使用量の削減)			1 環境経営計画の実施 (廃棄物の削減)				
	2 問題点の是正処置			2 問題点の是正処置			2 問題点の是正処置				



今年も、目標達成賞を
いただきました。

2. 環境経営方針

環境経営方針

吉田紙器工業株式会社は、段ボール製品を製造販売し「利益を得て」おります。段ボールはパルプより製造され、パルプは木材より製造されます。自然環境が保たれなければ「利益を得られなくなる」事を常に考えなければなりません。従って、私たちの住むかけがえのない地球、日本、地域等の環境を守り、保ち、向上させることが、私たちの社業の発展に繋がると信じ、事業活動の全てが環境保全に繋がると考え、自然に慈しみと思いやりを持った経営と行動に努め、広く国際的・社会的・地域的に貢献いたします。

1 事業活動の全ての分野を通じて環境経営マネジメントシステムを構築し、環境経営目標・環境経営計画を定めて継続的な改善に努めると共に、安全・品質等の改善も全て環境保全に繋がると考え、全てのマネジメントシステムの中心をEA21とし運用していく。

2 環境関係は基より、社会的責任を自覚し、全ての法令・規則・条例・差別・ハラスメント禁止・を遵守すると共に、国際的機関・行政機関・団体・地域等の要請に協力し、SDGs活動に賛同いたします。

- ① 児童労働の禁止
- ② 強制労働の禁止
- ③ 雇用及び職業における差別の撤廃
- ④ 結社の自由と団体交渉権の尊重

3 事業活動において環境に与える影響を削減しつつ効率化を計る為、次の事項に対して優先的に取り組みます。

- ① 設備・空調・車両の運転による、電気・燃料使用量の削減
- ② 事業活動から排出される産業廃棄物の削減
- ③ 事業活動による水使用量の削減
- ④ 環境に配慮した設備を導入しつつ効率化を行う

4 生産活動での使用物品・事務用品等グリーン購入に努め、循環型社会の実現に貢献いたします。

5 営業活動での環境に優しい製品のお客様への提案に努め、循環型社会の実現に貢献いたします。

6 環境保全向上に関する勉強を行い、国際・社会・地域的な貢献活動に努めます。

7 環境保全向上に関する事柄に留まらず、全ては環境保全に繋がると考え、広く勉強を行い、国際・社会・地域的な貢献活動に努めFSC認証活動に賛同いたします。

この環境経営方針は全社員に周知を徹底するとともに、社外へも公開いたします。

制定日 2006年6月21日

改定日 2022年2月3日

吉田紙器工業株式会社

代表取締役社長 吉田 修

3. 環境経営目標

今年度の環境経営目標は、2023 年度の実績値を基準値とし、電力使用量と燃料使用量については二酸化炭素排出量に換算して目標として以下のように設定いたしました。

*二酸化炭素排出係数は令和 4 年度東京電力 調整後排出係数 0.433Kg-CO₂ を使用

1) 環境経営目標

取組項目	2023 年度実績(基準値)	レポート対象期間目標 (24 年度)	次年度目標 (25 年度)	中期目標 (26 年度)
1. 電力使用量の削減	総電気使用量 173.72Kg-CO ₂ /1 万 m ² (2023 年度実績値)	0.5%削減 172.83Kg-CO ₂ /1 万 m ²	0.5%削減 171.97Kg-CO ₂ /1 万 m ²	0.5%削減 171.11Kg-CO ₂ /1 万 m ²
2. 燃料使用量の削減	トラック・営業者使用燃料 (ガソリン・軽油の削減) 75.97Kg-CO ₂ /1 万 m ² (2023 年度実績値)	0.5%削減 75.59Kg-CO ₂ /1 万 m ²	0.5%削減 75.21Kg-CO ₂ /1 万 m ²	0.5%削減 74.83Kg-CO ₂ /1 万 m ²
3. 廃棄物の削減	総廃棄物量の削減 (段ボールを除く) 5.21t (2023 年度実績値)	0.5%削減 5.18t	0.5%削減 5.15t	0.5%削減 5.12t
4. 水資源使用量の削減	年間水資源総使用量 349 m ³ (2023 年度実績値)	1%削減 345.5 m ³	1%削減 342 m ³	1%削減 338.6 m ³
5. グリーン購入の促進	3 品	3 品目増	3 品目増	3 品目増
6. 環境に優しい製品の提案推進	3 件	3 件	3 件	3 件

【化学物質削減】

取組の必須項目である化学物質使用量削減については、当社 PRTR 法対象物質の取扱いはボン드가該当します。ボンド(酢酸ビニル含有)については、代替品がないのと使用量が少ないので環境目標には上げていませんが、管理は継続していきます。

4. 実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

※1. 実績値は、2024年度活動期間(10月～9月)と基準年度2023年度の値とを比較する。

※2 電気、燃料使用量の単位量は、材料購入量1万㎡当たりの二酸化炭素排出量値とする。

取組項目	23年度(基準値)	24年度(実績)	目標達成率	判定
電力使用量 0.5%削減	総電気使用量 173.72Kg-CO2/1万㎡	184.26Kg-CO2/1万㎡	93.8%	

取組項目	23年度(基準値)	24年度	達成率	判定
燃料使用量 トラック・営業車燃料 0.5%削減	トラック・営業車使用燃料(ガソリン、軽油) 75.97Kg-CO2/1万㎡	75.97Kg-CO2/1万㎡	103%	

取組項目	23年度(基準値)	24年度	達成率	判定
廃棄物の削減 0.5%削減	総廃棄物量の削減 (段ボールを除く) 5.21t	(スポット処分除く) 8.22t	63%	

取組項目	23年度(基準値)	24年度	達成率	判定
水資源使用量の削減 1%削減	水資源使用量の削減 349㎡	354㎡	97.6%	

取組項目	23年度(基準値)	24年度	達成率	判定
グリーン購入の促進 3品目増	グリーン購入、環境配慮型 製品購入促進 3品目	100%再生トイレットペーパー、カーボンオフセット付カレンダー購入 バッテリー延命装置エルマシステム導入	100%	

取組項目	23年度(基準値)	24年度	達成率	判定
環境に優しい製品の推進提案 3件	環境に優しい製品の設計提案 3件	・FSC認証製品採用5件 ・形状変更による総使用量削減提案中 ・木パレからオール段ボール化提案中	167%	

* 2024年度の二酸化炭素排出量は、139,271.90 Kg-CO2 です。

昨年と比較すると、100.4%となっています。

5. 環境経営計画の取組結果と評価、次年度取組内容

当社は、事業活動における環境への負荷を低減するために、以下の通り活動を実施しており、その達成状況や活動の実施状況を委員会にてフォローしております。

活動内容詳細については、環境活動計画書（別紙）のとおりです。

2023 年度を基準とし、2024 年度（2023.10～2024.9）の実績評価を行いました。

取組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
電気使用量の削減 1.空調温度の適正化（冷房 29℃暖房 19℃） 2.生産工程の待機時間短縮および残業時間の削減 3.不必要な場所の消灯、デマンドコントロール管理 4.サマタイム実施による冷房の効率化 5.フォークリフトの始業前点検	基準 173.72Kg-CO2/1 万㎡ 目標 172.85Kg-CO2/1 万㎡ （対基準△0.5%） 実績 184.26Kg-CO2/1 万㎡ 目標達成率 93.8%	4 月から稼働している、パレタイズロボットシステムと 5 月に入れたストレッチフィルム自動巻機の電気使用量が増えているため、全体的に電気使用量は増加しており、デマンド管理も最大電力量が 110 程度だったのが 117 と増加しております。生産量の減少と残業が減っていることも要因として思ったほどの増加とはなっておりませんが、電気料金も上がっているため、今後も注視したいと思います。
燃料使用量の削減 1.アイドリングストップの徹底 2.日常および定期的に点検を行い適正な車輛整備を行う 3.配送効率を考慮した生産計画 4.エコカー（トラック）入替 5.営業車入替	基準 75.97Kg-CO2/1 万㎡ 目標 75.59Kg-CO2/1 万㎡ （対基準△0.5%） 実績 73.41Kg-CO2/1 万㎡ 目標達成率 103%	目標達成となりました。 ドライバー不足や燃料高騰等問題があり配達への不安が大きくなっています。今期は、生産量減により、軽油については目標達成となりました。営業活動は活発になりガソリン使用量は増加しております。お客様の理解をいただきながら手おろしからパレットおろしへ変更し効率化を図っております。将来を見据えて、アウトソーシングを 1 台増便いたしました。
廃棄物の削減 1.可能な限り裏紙利用する 2.文書管理電子化のさらなる有効利用 3.5S 活動の実施 4.汚れの少ないウエス軍手の再利用 5.抜き工程の歩留り向上 6.分別ボックス設置および分別の徹底 7.木パレ修理再利用化 8.版、型の定期的な処分実施	基準 5.21t 目標 5.18t （対基準△0.5%） 実績 8.22t 目標達成率 63%	今期は、予定していた型処分は行いませんでしたが、木パレの処分が 2570Kg とかなり多くなりました。また、工場敷地内への 2 回の不法投棄があり、460Kg のごみを廃棄いたしました。4 月と 6 月に除草作業を行い、鞍掛工業団地一斉清掃では 380Kg と昨年 の 3 倍のごみを回収いたしました。目標を大幅に未達成となりましたが、今後も計画的に型、版の処分も行っていきたいと思ひます。また、文書管理の電子化も進めていきたいと思ひます。
水資源使用量の削減 1.節水シール貼付とポスター掲示 2.循環式版洗い機適正使用 3.排水等の監視測定、設備の定期点検の実施	基準 349 ㎡ 目標 345.5 ㎡ （対基準△1%） 実績 354 ㎡ 目標達成率 97.6%	今年は、猛暑続きでダクトクーラーの使用時期が長かったのと、飲料水（工場内用麦茶）が多かったことが未達成の要因と思われます。排水を計画的に減らしておりますが、限界に来ており今後は、雨水利用できる設備など検討していきたいと思ひます。
グリーン購入の促進 1.有害性の少ない資材の購入 2.省エネ性の高い電気製品の購入 3.燃費のよい自動車の採用 4.事務用品グリーン購入比率向上	バッテリー延命装置エルマシステムをフォークリフト（ハンドフォーク含む）10 台に導入 100%再生紙トイレトペーパー、カーボンオフセット月カレンダー購入	バッテリー延命装置エルマシステムを導入し、6 ヶ月経過確認では、10 台全て改善されました。バッテリー交換による産業廃棄物を出さずに済みました。来期には、営業車入替を検討したいと思ひます。

取組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
環境に優しい製品の提案推進 1.省資源設計. 2.エコ梱包資材の提案 3.環境配慮製品の販売促進. 4.環境経営材料メーカーと取引拡大	・FSC®認証製品の採用 5 件 ・形状変更による総使用量削減と運送効率化を提案中 ・木パレからオールダンボールパレット化へ提案中	2023.10 月から FSC®認証製品の採用が増えて 2024.9 月までで 5 製品で FSC®認証製品の採用をいただきお客様へお届けしております。 また、提案中の案件もあります。 展示会などにも積極的に参加し、今後もお客様への提案を継続していきたいと思います。
環境保全取組実施率の向上 1.教育訓練の実施 2.取組状況チェック(毎年) 3.エコアクション 21 システムの確実な実施 4.工場周辺の溝清掃、地域ボランティア活動参加 5.工場見学者の受入 6.環境GSの実施	・6/29(土)工業団地一斉清掃活動に 21 名参加し 380Kg のゴミを回収 ・7/4 エコアクション 21 研修会参加	今年も、6 月の環境月間に合わせて、工業団地周辺の清掃活動を実施し、各自治体環境課へ報告いたしました。 エコアクション 21 研修会に参加し、環境経営レポート作成のポイントと地域判定委員会の審議ポイントについて学びました。 他にも展示会などに参加し、他社の取組について学びました。

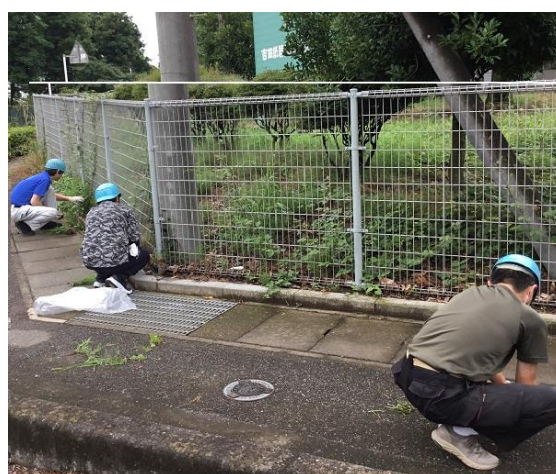
環境保全取組活動



工場周辺清掃活動

鞍掛工業団地一斉清掃の様子です。

今年も、新型コロナウイルス感染症への各社対応判断により、自由参加となりましたが、弊社は十分な対策をとりながら実施いたしました。



6. 環境関連法規の遵守状況確認、評価並びに違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りである。

また、関連法規制の遵守状況確認を毎年1回実施しており、違反、訴訟等はありませんでした。また、地域住民、関係機関からのクレームも3年間ありませんでした。

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
循環型社会形成推進基本法 廃棄物処理法 群馬県環境基本条例 群馬県生活環境の保全に関する条例	・廃棄物の削減 ・廃棄物の適正処置の確保 ・産業廃棄物保管基準遵守 ・産業廃棄物処理委託基準の遵守 ・産業廃棄物管理票の管理義務 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	遵守確認済
省エネ法 群馬県地球温暖化防止条例	・電気使用量の把握、削減 ・燃料の把握、削減	遵守確認済
騒音規制法 群馬県生活環境の保全に関する条例 公害防止協定書(邑楽町)	・特定施設設置の届出 ・規制基準の遵守(測定結果確認1回/年)	遵守確認済
振動規制法 群馬県生活環境の保全に関する条例 公害防止協定書(邑楽町)	・特定施設設置の届出 ・規制基準の遵守(測定結果確認1回/年)	遵守確認済
水質汚濁防止法 群馬県生活環境の保全に関する条例 公害防止協定書(邑楽町)	・規制基準の遵守 ・委託業者の測定結果の確認1回/月	遵守確認済
浄化槽法 群馬県浄化槽法施行規則	・浄化槽の届出 ・清掃、点検及び法定検査	遵守確認済
工場立地法 群馬県工場立地適正化条例 緑化協定書(邑楽町)	- 特定施設の届出 - 規制基準の維持(敷地に対し 20%以上)	遵守確認済
フロン排出抑制法	点検表にて簡易点検 1 回/3 か月	遵守確認済
悪臭防止法	臭気指数規制値 21 遵守と事故時応急処置、報告、改善対策	遵守確認済

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

全体評価	項目		評価の内容
	環境への取組は適切に実施されているか		電力使用量が目標の93.8%と大幅な未達成となってしまいました。原因として生産量が落ちた事により㎡単位的に使用量が上がってしまった事と、夏の猛暑による天井のファンやダクトクーラー等の長時間の使用が考えられますが、従業員の安全第一の為に今後、暑さ対策設備等を実施し、電力量と安全を両立出来る方法を考えてみましょう。燃料使用量は目標を達成しましたが、生産量が落ちた事による納品頻度の減少も影響していると思われます。また運送会社様へのアウトソーシングにより燃料使用量減による隠れたCO2排出量がある事を忘れないで下さい。しかしユーザーへ配送効率を働き掛けた効果も出ていると思います。廃棄物は63%と大きく下回ってしまった、木パレ等の廃棄を実施したことが主な要因だった、今後は計画的に廃棄も考えるようにして下さい。今年度のCO2排出量昨年度より0.04%増えてしまいました。生産量の減少が影響してはおりますが来年度以降、具体的な削減方法を検討してください。経済環境の悪化や災害等の影響があった中で全体的には環境への適切な取り組みがされていると判断いたします。
	環境経営システムが有効に機能しているか		猛暑の中でも電気の使い方を工夫したり効率化の努力等、数字には表れませんが従業員皆様が環境経営を意識している事が見えておりました。今後も環境を意識した活動を行って参りましょう。
見直し・指示	対象	変更の有無	見直しの内容・指示
	環境経営方針	無	環境のみならず災害対策やBCP等、活動の範囲を広げる事も検討してみてください。全てが環境経営へつながると思います。
	環境経営目標	無	カーボンフットプリント等が現実的実施されて来しております。勉強をして参りましょう。
	環境経営計画	無	
	実施体制	無	特になし

60期は経済環境の悪化等により生産量が減少してしまいましたが、値上げ効果や各分野の効率化により売上や粗利が前年を上回る事が出来ました。1年間を振り返っても元日に発生した能登北陸地震、猛暑、ゲリラ雷雨、台風、世界で戦争が続き、経済も不調と良い事柄が見当たりません。

しかしながら社内では今までの行って来た設備投資の効果ができてきたり、FSC製品が増え始めたり、chemSHERPAをスタート出来たりと一步一步前進しております。

来年度はユーザーの自動車メーカー様がストロングハイブリッド車を発売しますので導入を検討しております。CO2排出量削減に期待しております。

今後、カーボンフットプリントやSBT等、具体的な活動を実施して行かないとビジネスに影響が出てくると考えます。CO2削減活動は、業界等でまだまだ方向性に違いがありますが、基本となる「エコアクション21」の「環境経営」をしっかりと行う事により全て自社の強みになって行くと信じます。次年度は目標を従業員の皆様と一丸となって達成し良い年にして参りましょう。一年間ありがとうございました。